

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科		理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名		日常生活活動学演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年		学期及び曜時限	前期	教室名	302
担 当 教 員		杉原 翔太	実務経験とその関連資格	杉原:回復期病院で8年間勤務。認知症ケア専門士を取得。脳血管疾患のみならず循環分野にも携わる。□			
《授業科目における学習内容》							
日常生活動作(ADL)および手段的日常生活動作(IADL)について、ペーパーペイシエント(模擬症例)をもとに動作の評価や課題抽出を行い、理学療法士としての観察力・分析力・支援提案力を育成することを目的とする。							
《成績評価の方法と基準》							
レポート課題にて評価を行う							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
日常生活活動学テキスト 南江堂 配布資料							
《授業外における学習方法》							
教科書や配布資料を用いて予習・復習を行う							
《履修に当たっての留意点》							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ADL/IADLの評価基準と視点を理解し、演習の流れを把握できる		配布資料	配布資料を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 目的・進め方・評価法の確認(FIM・Barthel Indexなど)				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本動作の障害像を読み取り、適切な評価尺度を選択できる		配布資料	配布資料を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	症例①:高齢者の基本的ADLの読み取りと評価				
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	認知機能とIADLの関係性を踏まえた評価視点を持てる		配布資料	配布資料を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	症例②:IADLの低下と認知症状を含む評価				
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	評価結果から優先すべき課題や支援ニーズを明確にできる		配布資料	配布資料を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	生活環境や家族支援も含めた課題整理				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	生活機能と参加目標を結びつけた支援目標を立案できる		配布資料	配布資料を用いて講義内容の箇所を読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	ゴール設定・目標の立て方・ICF視点				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	他者の視点を取り入れ、チームで情報整理ができる	配布資料	配布資料を用いて講義 内容の箇所を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	グループワーク①:評価結果と課題分析の共有		
第 7 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	評価→課題→支援提案の一連の流れを実践できる	配布資料	配布資料を用いて講義 内容の箇所を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	グループワーク②:支援提案の共有と検討		
第 8 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	評価思考・課題整理・支援視点の定着を振り返り整理できる	配布資料	配布資料を用いて講義 内容の箇所を読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	まとめと振り返り		